

学生の確保の見通し等を記載した書類（目次）

(1) 新設組織の概要	P3
① 新設組織の概要	P3
② 新設組織の特色	P3
(2) 人材需要の社会的な動向等	P3
① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	P3
② 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	P4
③ 新設組織の主な学生募集地域	P4
④ 既設組織の定員充足の状況	P5
(3) 学生確保の見通し	P5
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	P5
ア 既設組織における取組とその目標	P5
イ 新設組織における取組とその目標	P6
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	P7
② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	P7
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	P7
イ 競合校の入学志願動向等	P8
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）	P8
エ 学生納付金等の金額設定の理由	P8
③ 先行事例分析	P9
④ 学生確保に関するアンケート調査	P9
ア) アンケート調査の概要（博士前期課程）（博士後期課程）	P9
イ) アンケート調査の結果（博士前期課程）	P9
a. 設問毎の内訳（博士前期課程）	P10
b. クロス集計（1～5までの条件合致者）（博士前期課程）	P11
c. 設問毎の内訳（博士後期課程）	P12
d. クロス集計（1～5までの条件合致者）（博士後期課程）	P13

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	P13
ア) 社会的背景	P13
イ) アンケート調査の概要	P14
ウ) アンケート調査の結果	P14
(4) 新設組織の定員設定の理由	P14

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
順天堂大学大学院 健康データサイエンス研究科健康データサイエンス専攻 (博士前期課程)	20	40	東京都文京区本郷2丁目1番1号
順天堂大学大学院 健康データサイエンス研究科健康データサイエンス専攻 (博士後期課程)	6	18	東京都文京区本郷2丁目1番1号

②新設組織の特色

デジタル分野の専門人材不足は、今後のデジタルサービスの需要次第で、これからも慢性的且つ長期的に続いていくものと考えられる。加えて、「人生100年時代」の到来と言われる日本において、人々の健康に対する関心度はますます高まってきている。そのため、健康をデータ化・データ分析し、エビデンスをもって科学的に課題発見・解決できる専門性の高い人材は、広い分野で求められている。

本学の強みは長年蓄積した大量の医学・医療・スポーツ領域のデータを保有しており、それらのデータを研究データとして最大限に駆使し教育研究を展開できることである。これらの教育研究を通し、博士前期課程では、高い倫理観を有し、データサイエンスの高度な理論と技術に基づいて、国際社会や地域社会における健康・医療・サイバーセキュリティを含む諸課題を主体的に発見し、国や地域、産学の垣根を越えて他者と協議し、その解決に向けて貢献する高度情報専門職者を育成する。博士後期課程では、国際社会や地域社会へ貢献する高い意識に基づき、データサイエンスをより深く探究し、創造的に活用することで新たな社会価値を創出することができる国際社会を牽引し、学術的進展に寄与することができる教育者・研究者を育成する。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

経済産業省「IT人材需給に関する調査」では、2030年には先端IT人材が最大54.5

万人不足すると試算している【資料1】。独立行政法人情報処理推進機構の「DX 白書 2023」においても、企業等における DX 推進人材の量的確保状況および見込について調査結果が発表されており、DX を推進する人材が充足していると回答した企業等の割合が日本は 10.9%、さらに大幅に不足しているとの回答は、2021 年度の調査結果の 30.6%から 2022 年度調査では 49.6%と大きく増加しており、DX 推進人材の「量」の不足が顕著に進んでいることが窺える。最後に同白書では、今後の人口減少と DX 市場の成長に伴い人材不足はさらに深刻化すると結んでいる【資料2】。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

前述①で記載したとおり、データサイエンティストなどのデジタル人材不足は深刻で、既に企業の採用においては、デジタル人材に対し通常よりも高い報酬水準を設定する例がみられるようになっている。【資料3】

科学技術政策研究所「日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査」では、博士課程進学を検討する際に重要と考える条件として、修了後のキャリアの見通しが重視されていることがわかる。学士課程修了者の進学率は全体的に横ばい、修士課程修了者の進学率は各分野を総じて減少傾向にはあるが、上述の課題等を背景に、本研究科の育成する人材への期待は高く、また本研究科学問分野は、社会ニーズに比例し今後の上昇が大いに見込まれる。【資料4】

③新設組織の主な学生募集地域

新設組織が置かれる東京都の定員充足状況は、【資料5（別紙1）】のとおり、令和3年度から令和5年度までの3年間の充足率が100.0%を超えている。

令和3年度に文京区本郷の御茶ノ水キャンパスに開設した、既設の医学研究科医科学専攻（修士課程）の中に、AIと医学の融合を学修目標とするデータサイエンス学位コースを設置した。同コースの学問分野は医学であるが、本研究科は保健学を含んでおり同コースとの類似性及び親和性は高いと言える。その医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コースの研究科生の出身都道府県（海外含む）は下表のとおりである。

(単位：人)

地域	北海道・東北	関東甲信越	北陸	関西	中国	九州	海外	計
令和3年度入学者		3		1		1	4	9
令和4年度入学者	2	3	1				4	10
令和5年度入学者		12		3	1		5	21
計	2	18	1	4	1	1	13	40

新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況については、【資料5（別紙1）】のとおり、理・工学系（博士前期課程）において定員充足率が100.0%を超えているものの（令和5年度実績）、保健系（博士前期課程）では85.78%、博士後期課程においては、理・工学系（博士後期課程）が41.62%、保健系（博士後期課程）が76.34%に留まっている（何れの値も令和5年度実績）。

しかしながら、本学は長年蓄積した大量の医学・医療・スポーツ領域のデータを保有しており、それらを研究データとして最大限に駆使した教育研究を推進できる。本研究科の教育研究は競合校に真似できない強みがあると言える。その特長を訴求することによって、医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コースと同様に、地域を問わず、日本全国及び海外からの入学希望者を見込むことができる。

④既設組織の定員充足の状況

本研究科の基礎学部である健康データサイエンス学部健康データサイエンス学科は、令和5年4月に開設した。入学定員の充足状況と令和5年度の入試結果は【資料5（別紙2）】のとおりである。

なお、令和6年度入試は全て終了しており、全入試の志願者数（延数）は、前年比177.4%と増加した（入学定員100名に対し508名の志願者数(延数)）。このように、基礎学部の志願者数は順調に増加しており、今後の定員充足については問題ないと考える。

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

令和3年度に、既設の医学研究科医科学専攻（修士課程）の中に、AIと医学の融合を学修目標とするデータサイエンス学位コースを設置した。下表のとおり、同コースの志願者数及び入学者数は年々増加している。

	令和3年度 入試	令和4年度 入試	令和5年度 入試	(参考)令和6年 度入試
志願者数（人）（※）	9	10	24	31
（内 社会人学生）（人）	3	6	9	7
（内 外国人留学生）（人）	4	2	5	12
志願者全体の伸び率前（前 年比：倍）	—	1.1	2.4	1.3
入学者数	9	10	21	30 (入学予定)

（※）志願者には、研究計画書（本学指導教員の承認済）及び本学指導教員の推薦状を出願書類として求めている。

加えて、既設同コースでは、次の取組を軸に広報活動を展開し、学生募集を行っている。

1) Web 活用による広報活動

①大学ホームページへの掲載

現在は、学校法人のホームページに当該コースの紹介ページを設けている。

②YouTube での動画配信

当該コースのコンセプトムービーを配信し、学びの特色を訴求している。

2) コース及び入試制度説明会の開催

令和3年度から、入試制度説明会を開催し、コース紹介と入試制度の説明を行っている。令和3年度入試制度説明会（年2回開催）は、延べ18名、令和4年度入試制度説明会（年3回開催）は、延べ29名、令和5年度入試制度説明会（年3回開催）、延べ89名、令和6年度入試制度説明会（年3回開催）は、延べ104名の参加者数となった。

なお、参加者の受験者及び入学者の割合は【資料5（別紙3）】のとおりであるが、参加者数、受験者数、入学者数の全てが順調で、右肩上がりに推移している。

イ 新設組織における取組とその目標

新設の本研究科では、既設組織の現在の取組に次の4つの広報活動を加えることで、広く新設の研究科を理解してもらおうとともに、志望度の高い学生募集を行う。

1) 研究科専用ホームページの開設

本研究科専用ホームページを認可後速やかに開設し、研究及び研究室の紹介を軸とした、学修やカリキュラム内容、施設設備の状況、問い合わせ窓口、今後開催を予定している説明会等の開催案内等、受験希望者に有意義で参考となる内容を情報公開する。

2) SNS（公式LINE、X（旧Twitter）、Facebook等）での情報発信

認可後より毎週定期的に情報発信を行い、受験希望者との接触回数増加を図る。

3) コース及び入試説明会の回数増

対面形式による受験希望者との接触は、最も出願に直結する取組であり、実施回数を増加し、本研究科への理解が深い志願者の増加を図る。

4) 同窓会ネットワークによる広報活動

本学の同窓会である医学部同窓会、スポーツ健康科学部同窓会（啓友会）、看護学部同窓会の会員の多くは、医師、中学校・高等学校等の保健体育教員、看護師、保健師等として全国規模で活動している。同窓会は年刊又は季刊で同窓会誌

を発売している。同窓会誌に本研究科の案内記事を掲載し、全国規模で広報を行う。同窓会は、定期的に東京及び各地区で総会や支部会等を開催し、理事長、学長、学部長等が出席している。同窓会の総会や支部会等にて本研究科の開設及び研究科概要・特色等を紹介し、志願者募集への協力を働きかけていく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数 (博士前期課程 (M))

本研究科は、人の健康の基本を理解し、データを科学する力量を身につけ、情報に関する高度な専門知識と技術を備えたデータサイエンティストとして、日本及び世界の持続的発展を担う人材の育成を目的としている。医学・医療、統計学、コンピュータとプログラミング、サイバーセキュリティ、データサイエンスが本研究科の教育内容の基本となる。そのため、AIと医学の融合を教育目標とする既設の医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コースとは類似性・親和性が高く、相互がそれぞれの併願先となるなど高い相乗効果が見込まれる。

(博士後期課程 (D))

既設の医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コースには、博士後期課程を設置していない。そのため、後述のアンケート調査にあるように、既設修士課程コース修了後は新設する本研究科の博士後期課程への進学を希望する研究科生が多く、既設修士課程修了者から一定の入学者が見込まれる。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

【資料6】の競合校一覧のとおり、学校規模の類似性・定員規模・学問分野・所在地・学力層、以上の類似性の観点から、実際の入試で併願が見込まれる7校を競合校として選定した。その中に本研究科が特色とする「健康」と「データサイエンス」を軸とする競合校は比較的少ないものの、学校規模と学問分野の類似性があり学部入試でも競合するのが、北里大学大学院未来工学研究科生命データサイエンス専攻（修士課程）と、学問分野で類似性のある東京工科大学バイオ・情報メディア研究科が競合校となる。

北里大学大学院を含め競合2校の教育内容等について、入手した資料等から可能な限り比較検討を重ねた。【資料7】

本学の優位性としては、一つはキャンパス立地があげられよう。東京中心部である東京都文京区に立地し、JR線御茶ノ水駅・御茶ノ水橋口、東京メトロ丸ノ内線御茶

ノ水駅より徒歩7分であり、通学だけでなく、学修や研究で必要な関係機関などへの交通アクセスも利便性は高い。本研究科は社会人学生の入学も期待しており、キャンパス・ロケーションのメリットは大きいと考える。二つ目として、学納金を国公立大学に近い水準に設定しており、経済支援の観点でも配慮している。

イ 競合校の入学志願動向等

【資料6】のとおり、大半の大学で大学院に関する入学志願状況等が公開されていないため、競合校の入学志願状況を踏まえた本研究科の定員充足の見込みを客観的に説明するのが難しいが、上述の「(3) 学生確保の見通し①ア既設組織における取組とその目標」のとおり、既設の医学研究科医科学専攻(修士課程)データサイエンス学位コースの志願者数は年々増加している。そのため、「医療」「健康」をキーワードに類似性・親和性の高い新設の本研究科においても同様の入学志願動向が期待できる。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等(競合校定員未充足の場合のみ)

本学は長年蓄積した大量の医学・医療・スポーツ領域のデータを保有しており、それらを研究データとして最大限に駆使した教育研究を推進できるのが、本学の独自性であり、競合校に真似できない最大の強みである。加えて、学納金を低く設定することで学生の経済的負担を抑えることができる。そのため、社会ニーズに応えた「高度情報専門職者」を育成・輩出することで社会に貢献する、という本研究科の強い理念は、必ず入学希望者の理解を得られるものと確信している。また、都心立地というロケーション・メリットを活かし、社会人を含めた研究科生の通学負担を軽減できることも大きく訴求できる本研究科の特長と言える。

客観的には、前述のイで記載したように、既設の医学研究科医科学専攻(修士課程)データサイエンス学位コースの志願者数は年々増加しており、類似性・親和性の高い新設の本研究科においても同様の入学志願動向、並びにシナジー効果を得られると確信しており、十分に定員を充足する見込みがある。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本研究科の学生納付金の額は次の通りである。

学費	金額
入学金	200,000 円
授業料	575,000 円
施設設備費	50,000 円
年間合計 (1年次)	825,000 円

(2年次以降)	625,000円
2年間合計(博士前期課程)	1,450,000円
3年間合計(博士後期課程)	2,075,000円

本研究科の学費は、一般的な国公立大学とほぼ変わらない金額である。本学既設の5研究科においても同様に、一般的な国公立大学とほぼ変わらない学費となっており、経済的な側面において、本学研究科生が教育研究に専念できるよう最大限配慮している。

③ 先行事例分析

該当がない。

④ 学生確保に関するアンケート調査

本研究科に興味があり、本研究科を受験・入学したいと考える学部学生及び研究科生(修士生)がどの程度存在するかを確認するために、アンケート調査を行った。

ア) アンケート調査の概要

- ・ 調査期間 令和6年1月
- ・ 調査対象者 (博士前期課程)
 - ・ 順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科(健康科学コース、スポーツ医科学コース、スポーツコーチングコース)3年生:270名
- (博士後期課程)
 - ・ 順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻(修士課程)データサイエンス学位コース1年生:20名
- ・ 調査方法 調査票及び本研究科の養成する人材像等について記載したチラシ【資料8】を配布し、教員の協力により教室等で直接学生及び研究科生にアンケート用紙に記入して回答して頂いた。
- ・ 調査票 【資料9】 調査票及びチラシには、設置予定研究科の名称、設置予定時期、設置予定場所(アクセス含む)、入学定員、学生納付金(入学金、授業料等)、設置の理念、養成する人材像、アドミッション・ポリシー、競合する大学院の名称・所在地を明示した。

イ) アンケート調査の結果

(博士前期課程)

アンケート調査の対象は令和7年度博士前期課程進学対象者となる、順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科(健康科学コース、スポーツ医科学コース、ス

ポーツコーチングコース) 3 年生 270 名に対して、アンケート調査を行い、245 名から有効回答 (有効回答率 90.7%) を得た。

a. 設問毎の内訳

(設問) あなたは修了後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

延べ回答数は 286 件。その内、(選択肢 1) の「大学院研究科 (博士前期課程)」を選択した学生は 84 名 (29.4%)、(選択肢 2) の「専門学校」を選択した学生は 7 名 (2.4%)、(選択肢 3) の「就職」を選択した学生は 121 名 (42.3%)、(選択肢 4) の「未定」を選択した学生は 66 名 (23.1%)、(選択肢 5) の「その他」を選択した学生は 8 名 (2.8%) であった。

(設問) 上記問のうち、1 を選択した方に質問です。志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)。

延べ 123 の回答数があり、(選択肢 1) の「国立」を選択した学生は 41 名、(選択肢 2) の「公立」を選択した学生は 6 名、(選択肢 3) の「私立」を選択した学生は 76 名となった。

(設問) あなたは大学院研究科(修士課程)を修了後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数選択可)

延べ281の回答数があり、学問分野別の集計(延数)は次のとおりとなった。

- 1 電気通信工学 (18 名)
- 2 その他 (工学) (16 名)
- 3 保健学 (91 名)
- 4 その他 () (156 名)

その他の例：数学、物理学、医学、体育学、など

(設問) あなたは順天堂大学健康データサイエンス研究科健康データサイエンス専攻(博士前期課程)が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

(選択肢 1) の「第一志望として受験する」を選択した学生は 32 名 (13.1%)、(選択肢 2) の「第二志望として受験する」を選択した学生は 36 名 (14.7%)、(選択肢 3) の「第三志望以降として受験する」を選択した学生は 7 名 (2.9%)、(選択肢 4) の「受験しない」を選択した学生は 170 名 (69.4%) となった。

(設問) 上記問で 1~3 を選択した方に質問です。順天堂大学健康データサイエンス

研究科健康データサイエンス専攻（博士前期課程）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

（選択肢 1）の「入学する」を選択した学生は 31 名、（選択肢 2）の「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した学生は 39 名、（選択肢 3）の「入学しない」を選択した学生は 5 名となった。

b. クロス集計（1～5までの条件合致者）

上述ア）設問毎の内訳を、本研究科に該当する条件でクロス集計した結果が下表のとおりである。条件としては、「大学院研究科・私立・本研究科学問分野・本研究科を第一志望先・入学する」、以上をクロス集計している。

表：クロス集計（本研究科1～5までの条件合致者）

1	人数	2	人数	3	人数	4	人数	5	人数
大学院研究科	73	私立	64	電気通信工学	2	第一志望受験	2(※)	入学する	2(※)
				その他(工学)	1	第一志望受験	0	入学する	0
				保健学	38	第一志望受験	23(※)	入学する	23(※)
計	84		76		41		23(※)		25(※)

(※)重複者2名含む

博士前期課程の入学定員は20名であり、本調査において本研究科の入学希望者は23名(実数)となっており、入学定員を上回っているが、本調査対象外の他大学や社会人からの受験も想定されることから、入学定員を大きく上回る志願者を確保できる見通しである。

なお、令和7年度の博士前期課程進学対象者ではないが、令和8年度から本研究科の基礎学部である健康データサイエンス学部健康データサイエンス学科の1年生が博士前期課程への進学対象者となる。令和5年度後期に、学部1年生に対し進路希望調査を実施しており、そこでの調査結果では、大学院進学を希望している学生は全体の46.6%（有効回答数90名）、本研究科に進学したい学生は34名となっている。そのため、博士前期課程の開設2年目以降の学生募集については、開設初年度に対し学内進学者数の増加が見込まれることになる。【資料10】

(博士後期課程)

アンケート調査の対象となる令和7年度博士後期課程進学対象者となる順天堂大学大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コース1年生に対して、アンケート調査を行い、20名から有効回答（有効回答率100.0%）を得た。

c. 設問毎の内訳

(設問) あなたは修了後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

延べ回答数は 24 件。その内、(選択肢 1) の「大学院研究科(博士後期課程)」を選択した修士生は 15 名(62.5%)、(選択肢 3) の「就職」を選択した修士生は 7 名(29.2%)、(選択肢 4) の「未定」を選択した修士生は 2 名(8.3%)、(選択肢 2) の「専門学校」と(選択肢 5) の「その他」を選択した修士生は 0 名であった。

(設問) 上記問のうち、1 を選択した方に質問です。志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)。

延べ 28 の回答数があり、(選択肢 1) の「国立」を選択した修士生は 12 名、(選択肢 2) の「公立」を選択した修士生は 2 名、(選択肢 3) の「私立」を選択した修士生は 14 名となった。

(設問) あなたは大学院研究科(修士課程)を修了後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数選択可)

延べ 47 の回答数があり、学問分野別の集計(延数)は次のとおりとなった。

- 1 電気通信工学(7名)
- 2 その他(工学)(6名)
- 3 保健学(14名)
- 4 その他() (20名)

その他の例：数学、物理学、医学、体育学、など

(設問) あなたは順天堂大学健康データサイエンス研究科健康データサイエンス専攻(博士後期課程)が開設された場合、受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

(選択肢 1) の「第一志望として受験する」を選択した修士生は 10 名(50.0%)、(選択肢 2) の「第二志望として受験する」を選択した修士生は 2 名(10.0%)、(選択肢 3) の「第三志望以降として受験する」を選択した修士生は 1 名(5.0%)、(選択肢 4) の「受験しない」を選択した修士生は 7 名(35.0%)となった。

(設問) 上記問で 1~3 を選択した方に質問です。順天堂大学健康データサイエンス研究科健康データサイエンス専攻(博士後期課程)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

(選択肢 1) の「入学する」を選択した修士生は 10 名、(選択肢 2) の「志望順位

が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した修士生は3名、(選択肢3)の「入学しない」を選択した修士生は0名となった。

d. クロス集計 (1～5までの条件合致者)

上述ア) 設問毎の内訳を、本研究科に該当する条件でクロス集計した結果が下表のとおりである。条件としては、「大学院研究科・私立・本研究科学問分野・本研究科を第一志望先・入学する」、以上をクロス集計している

表：クロス集計 (本研究科1～5までの条件合致者) (※)重複者

1	人数	2	人数	3	人数	4	人数	5	人数
大学院研究科	15	私立	14	電気通信工学	4(※)	第一志望受験	1	入学する	1
				その他 (工学)	3(※)	第一志望受験	1	入学する	0
				保健学	8	第一志望受験	6	入学する	6
計	15		14		15		7		7

(※)重複者2名含む

博士後期課程の入学定員は6名であり、本調査において本研究科の入学希望者は7名となっており、入学定員を上回っているが、本調査対象外の他大学院(修士課程)や社会人からの受験も想定されることから、入学定員を大きく上回る志願者を確保できる見通しである。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

ア) 社会的背景

中長期的な人材需給予測及び実際の求人状況については、前述の(2)人材需要の社会的な動向等で記載したとおり、経済産業省「IT人材需給に関する調査」では、2030年には先端IT人材が最大 54.5万人不足すると試算している。独立行政法人情報処理推進機構の「DX白書2023」においても、DXを推進する人材が充足していると回答した企業等の割合が日本は10.9%、さらに大幅に不足しているとの回答は、前年度の調査結果の30.6%から2022年度調査では49.6%と大きく増加しており、DX推進人材の「量」の不足が顕著に進んでいることが窺える。2つの調査ではともに中長期的に高い需給ギャップ(需要超過)が発生することが分析されている。一方、「我が国におけるIT人材の動向(令和3年2月、調査報告書(みずほ情報総研株式会社))」によると、デジタル人材の報酬水準について、AI・データサイエンス等に関する高いスキルを持つ優秀なデジタル人材の採用の際に、高額の報酬水準を提示する例がみられるようになっていることが報告されている。【資料3】

加えて、本研究科修了者に対する企業・施設の採用意向の確認するために、アンケ

ート調査を実施した。

本研究科修了者の就職先として想定される企業・施設に本研究科の計画概要及びアンケート用紙を送付し、アンケート用紙に記入して頂く方法により実施した。

イ) アンケート調査の概要

- ・調査期間 令和6年1月
- ・調査対象 企業・施設の人事採用担当者（200社）
- ・調査方法 企業・施設宛に学部の概要、養成する人材像をまとめたチラシ【資料8】及び調査票を送付し、同封の返信用封筒にて返信して頂いた。
- ・調査票 【資料11】 調査票及びチラシには、設置予定研究科の名称、設置予定時期、設置予定場所（アクセス含む）、入学定員、設置の理念、養成する人材像を明示した。

ウ) アンケート調査の結果

卒業生の就職が見込まれる企業等の人事責任者にアンケート協力依頼書を送り、68 企業・施設から有効回答（回答率 34.0%）を得た。

アンケート対象は、本研究科生の実際の就職が見込まれる健康・医療・ヘルスケア関連産業・施設（製薬メーカー、医療機器メーカー、医療機関）及び IT 系の企業・施設へ調査した。

本研究科の社会的必要性については、66 企業・施設、97.1%が「社会的必要性を感じる」と回答し、そのうち「とても必要性を感じる」は 68.2%で半数を超えたことから、本研究科開設の社会的必要性は高く評価されていることが窺える。

本研究科が養成する人材についての魅力については、48 企業・施設、70.6%が「魅力を感じる」と回答し、そのうち「とても魅力を感じる」は 41.76%であったことから、本研究科が養成する人材の魅力は高く評価されていることが窺える。

本研究科生の採用意向について、将来を見込んだ採用の可能性を質問し、14 企業・施設、20.6%から「ぜひ採用したい」、33 企業・施設、48.5%から「採用したい」と回答を得たことから、多くの企業等が本研究科修了者への採用意向を示していることが窺える。

なお本調査は 200 企業等（有効回答 68 件）に限定して実施したものであり、本調査対象外の就職先も多く想定されることから、本研究科修了者に対しては非常に高い人材需要があることが想定される。

（4）新設組織の定員設定の理由

本研究科は、博士前期課程の入学定員を20名、収容定員を40名、博士後期課程の入学定員を6名、収容定員を18名とした。

定員の設定は、既設の医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コースの入学実績と競合校の定員設定を総合的に勘案し設定したものである。IT人材及びDX推進人材の不足という社会的課題へ本研究科が貢献できるよう、その解決・発展に貢献する持続可能な教育研究を展開し、1人でも多くの高度情報専門職者を育成するとともに、研究成果をもって新たな知見を社会に発信・展開することができる教育者・研究者を育成したいと考えている。開設後は組織的に教育研究の質を評価しつつ適正な定員管理に努めていくこととする。

入学選抜については、本研究科のアドミッション・ポリシーにしたがい、下表の4方式にわたる多様な入学選抜方法を工夫し、多面的・総合的に評価して入学選抜を行う。なお、博士前期課程(M)の募集人員に女子枠を設ける。秋入学については、研究科完成後すぐに教育研究成果を評価し、教育課程等各種環境の改善整備を進め、2027年度入試から実施する計画である。

(表) 入学選抜の方法及び募集人数

入試区分	入学定員 (博士前期課程(M)) 20人	入学定員 (博士後期課程(D)) 6人
① 一般選抜	7名 (内女子枠2名)	2人
② 社会人選抜	若干名	若干名
③ 外国人留学生選抜	5名 (内女子枠2名)	若干名
④ 学内推薦選抜	8名	2人

本研究科（博士前期課程及び博士後期課程）の入学希望については、既設の学部の学生に対するアンケートを行い（本文9ページ）、入学希望者数の客観値を得た。入学希望者数は学内推薦選抜対象者（出願資格・要件として、GPA3.0以上の成績）であるが、この入学希望者数で入学定員を上回っている（GPA2.9以下の者は一般選抜に出願）。

一般選抜、社会人選抜及び外国人留学生選抜の入学定員の設定の際に根拠としたのは、類似性・親和性の高いと考えられる既設の医学研究科医科学専攻（修士課程）データサイエンス学位コースにおける入試実績値で、その志願者の増加傾向から予想した見込み数である（本文5ページの「ア 既設組織における取組とその目標」の表）。当該研究科コースの志願者数は、令和4年度10人、令和5年度24人、令和6年度31人と右肩上がりに推移していることに加え、令和6年度の志願者数31人の内訳は、学部等出願者12人、社会人7人、外国人留学生12名となっており、様々なキャリアから志願者が集まっている。この実績から見て、加えて本研究科が有する領域の特性から、本研究科においても他大学の理・工学系学部卒業者及び理・工学系分野修了者、IT企業、製

薬及び医療機器メーカー、ヘルスケア企業、医療機関等における実務経験者など、多様な所属及び選抜方法からの志願者が見込まれるものと考えている。

加えて、本文6ページの「イ 新設組織における取組とその目標」における各種学生募集活動（広報等）の学生募集計画に即し、各取組みの精度を高め推進し、学生確保を確実なものとしていく。